

+ = × ÷ -



「和」の方程式

×



ホテルロイヤルクラシック大阪

異文化と混ざり更新され続ける「和」
村野藤吾の新歌舞伎座のファサード×ホテル

÷



畳・襖

平面を視覚的にモジュールで割る畳
大空間を自由自在に割ることのできる襖

-



茶室

極限までのシンプルさを求めた空間
余計な機能・装飾を排除

私が導いた和についての方程式 **和 = × ÷ -**

この方程式が成り立つと仮定する。

リアルなわたしの「和」



これは私の実家の和室である。

× 和室 × カーテン（洋）

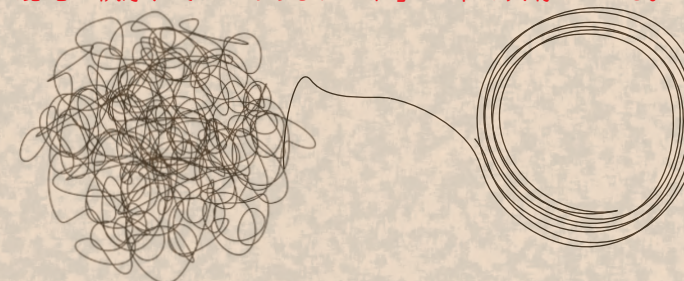
÷ 視覚的にモジュールで割付
をする畳

- 雑貨やモノはしまい、素の
なにもない状態を美とする
引き算の美学

したがって、「和」の方程式は成り立つと証明された。

混沌と秩序の「和」

私にとって、「和」とは × ÷ - の全てが詰まっていて、
混沌としている状態に感じる。
しかし、「和」とはやはり秩序が存在しているようにも感じ、
混沌・秩序、そのどちらもが「和」の中で共存している。



異質な「和」が残る大阪なんば

大阪なんばは文化の更新速度が速く、「和」と多文化が混ざりあい、
少し異様で艶めかしい「和」がそこには存在している。



対象敷地は、大阪なんば
美園ユニバースビル跡地

今年に閉館が決定し、再開発のために取り壊されることが決定。
歓楽施設として存在した異次元空間「味園ユニバース」。
65年の歴史のなかで、なんばの「和」や多文化を受け入れ、
このまちの時代を映す鏡として存在してきた。
混沌と秩序が共存するなんばの文化を映す建築の跡地に
新たな解釈をした混沌と秩序の「和」の空間を挿入することにより、
この土地が持つ「文化の更新速度」を加速させる。